

No. 1623

バルセロナ展

— 横浜 —

「横浜博」の開かれたみなとみらい21地区で「バルセロナ展」が開かれています。これは港湾都市、経済的発展力、文化の窓口などの共通点をもつヨコハマとスペインのバルセロナが、これからの「都市の創造」をテーマにしたイベントです。バルセロナの館内には建築の鬼才ガウディの作品や1960年代から現代までの創造的な工芸デザインなどスペインの文化、芸術が紹介されています。また1992年のオリンピック開催のために日本人が設計したメイン会場の模型も置かれています。外のステージでは情熱的なフラメンコの踊りが繰り広げられ、スペインムードを高めています。この催しは7月1日まで開かれそのあと海外10ヶ国で展示されます。

海部首相南西アジア歴訪

海部首相は4月28日から5月6日まで南西アジア4ヶ国を訪問しました。

第一の訪問国インドではシン首相との首脳会談で海部首相は「南北問題討議の場が必要」と表明、ヒューストン・サミットで先進国に働きかけていく考えを明らかにしました。またインド議会の演説で「世界の政治潮流が冷戦構造から対話と強調を通して新しい国際秩序をつくる方向に進んでおりこの動きをアジアへ連動させねばならない」と強調。

第二の訪問国バングラディシュ。日本の首相訪問は1971年以来とあって熱烈な歓迎をうけました。エルシャド大統領との首脳会談では日本から89年度円借款約300億とする方針を表明。そのあと日本の無償資金協力で造られた全長930メートルのメグナ橋の開通式に出席。

第3の訪問国はパキスタン。緑の多いパキスタンの市街地。ブット首相との首脳会談でインドとの間で緊張のつづくカシミール問題について海部首相は「両国間が自律的に話し合い平和的解決を図ってほしい」と述べました。

第4の国スリランカではプレスダーサ大統領との会談でスリランカ国内の民族紛争について「人権は大事なことであり関心をもって見守りたい」と表明。

南西アジア4ヶ国訪問のあと最後にASEANの主要国インドネシアにスハルト大統領を訪問し首脳会談。カンボジアの早期和平実現のため当時者同士の対話が不可欠との認識で一致しました。

今回の南西アジア歴訪が日本への経済協力の期待とともに「アジアの一員」である日本の政治的役割がより深まってゆくようです。